

教育のつどい大阪2020全体会
9月19日(土)13:30開会13:00開場
大阪市立阿倍野区民センター大ホール
記念講演：寮美千子さん(作家・詩人)
「子ども達の心を開く物語の教室」

泉北教育

NO.2182 2020.9.7
発行 泉北教職員組合
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2
0725-41-1953 Fax0725-44-6570
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp

子どもの命と健康を守り、安全安心に学校の教育活動を行うための要請書

新型コロナウイルスの感染拡大防止に、貴委員会をはじめ、市(町)をあげて様々な対応・対策に尽力されていることは敬意を表します。

全国でも、大阪でも感染拡大が続く中、子どもたちの命と健康、学習権を守り、教職員の健康や生活を守るために下記の点について要望いたします。

記

1. 安全な距離を保った学習環境にするため、1学級の定員を20人程度にするよう、国や府に強く働きかけるとともに、市(町)独自でも、少人数学級を実施すること。
2. 標準授業時数を上回る授業時間確保などの教育課程を押しつけず、各校の自主性を尊重すること。
3. 感染防止の観点から、教職員全員に定期的なPCR検査を実施すること。
4. 感染防止対策などによる、教職員の負担を減らすために、職員を増員すること。
5. 感染防止に重要な役割を担っている養護教諭を、各校に複数配置するよう国や府に強く働きかけること。
6. 感染防止対策の措置や提案は、教育現場の状況や要望を把握した上で行うこと。
7. 「web授業」(一方的講義)は、あくまでも補助的なものであり、授業の代替としないこと。また、「web授業」作成にあたっては、教職員の過度の負担にならないよう、考慮すること。
8. 子どもの精神的ケアのためにカウンセラーの体制を増強すること。

新学期にあたり、泉北教職員組合より、和泉市・高石市・忠岡町の各教育委員会に「新型コロナウイルス感染拡大防止」に関する要請書を提出しました。

「20人程度の少人数学級実施」「授業時数確保を学校に押しつけるな」等の項目は一学期と同じですが、今回新たに「感染防止の観点から、教職員全員に定期的なPCR検査を実施すること。」を加えました。

これは医師の団体や野党から「感染震源地(エピセンター)」を明確にし、その地域の住民、事業所の在勤者の全体に対して、PCR等検査を実施することに加え、「医療機関、介護施設、福祉施設、保育園・幼稚園、学校など、集団感染によるリスクが高い施設に勤務する職員、出入り業者への定期的なPCR等検査」が、感染防止に有効と指摘されていることを参考にしました。

泉北教組より各地教委へ要請 教職員全員にPCR検査を

安倍「教育こわし」の先兵

「教育再生実行会議」でさえ「少人数学級」を検討

新聞・テレビなどの報道によれば、政府の「教育再生実行会議」が8月25日、首相官邸で会合を開き、新型コロナウイルス禍の学びに関し、学級規模の少人数化などを議論したとのこと。複数の委員が感染拡大防止の観点から、少人数化を推進すべきだと指摘。会議の下に設置したワーキンググループ(WG)で検討を深めることを確認しました。



安倍晋三首相は冒頭、「ポストコロナ期において子どもたちを誰一人取り残すことなく学びを保障していくことが何よりも重要。少人数による指導体制などを改めて検討する必要がある」と発言。小中学校は1学級40人を基本に編成されているが、委員からは「30人未満にすべきだ」といった意見が出ました。

7月の会合では、委員の箕面市長が「(分散登校)のときには、これまで不登校だった多くの子どもたちが登校できたということがありましたが、学級規模が徐々に復元してくるにつれて反比例する形で、再び学校に来られなくなったという結果が生じています。このことから、現在の学級規模の大きさというのは不登校の壁にもなっていることが証明されました。」と発言し、「できれば20人、少なくとも30人の学級編制の早期実現」を主張しています。

子どもと学校を追い詰める「新学習指導要領」は抜本的見直し。「チャレンジテスト」は廃止。